

とうかい食育推進だより



東日本大震災に関して

この度の東日本大震災で被災されました皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。

農林水産省では、この度の東日本大震災の発生に伴い、積極的な情報を行っていくため、各種ホームページを開設しています。

東日本大震災に関する情報

食料等の確保及び円滑な流通の確保等の東日本大震災に関する情報
http://www.narf.go.jp/j/kanbo/ijoho/saigai/index.html
関係府省等のサイトへのポータルサイト

農畜水産物の安全性確認結果・出荷規制などの情報に関するポータルサイト
http://www.narf.go.jp/noutiku/kyo/index.html
農林水産省携帯電話用ホームページ



また、東日本大震災の被災地及びその周辺地域で生産・製造されている農林水産物、加工食品を正確な知識に基づき積極的に消費することによって、産地の活力再生を通じた被災地の復興を応援するための取組を始めています。

食べて応援しよう!

被災地を応援
農林水産省

http://www.narf.go.jp/j/soushoku/eat/

第2次食育推進基本計画

食育基本法に基づき、平成18年3月に食育推進基本計画が策定され、18年度から22年度までの5年にわたり、食育推進施策が実施されてきました。

本年3月31日、これまでの食育の推進の成果と食をめぐる諸課題を踏まえ、平成23年度から27年度までの5年間の新たな食育推進基本計画が策定されました。

新しい計画のポイントは、周知にとどまらず、国民が「食料の生産から消費等に至るまでの食に関する様々な体験活動を行うとともに、自ら食育の推進のための活動を実践することにより、食に関する理解を深めること」(食育基本法第6条)を旨として、生涯にわたって間断なく食育を推進する「生涯食育社会」の構築を目指すとともに、食をめぐる諸課題の解決に資することとされています。また、食育の推進に関する施策についての基本的な方針として、3つの重点課題を掲げています。生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育の推進、生活習慣病の予防及び改善につながる食育の推進、家庭における共食を通じた子どもへの食育の推進
さらに、平成27年度までの目標としては、次の11項目が設けられ

ています。

食育に関心を持っている国民の割合の増加 90%以上

朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加 10回以上

朝食を欠食する国民の割合の減少 子ども0%、20・30歳代15%以下

学校給食における地場産物を使用する割合の増加 30%以上
栄養バランス等に配慮した食生活を送っている国民の割合の増加 60%以上

内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している国民の割合の増加 50%以上

よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心のある国民の割合の増加 80%以上

食育の推進に関わるボランティアの数の増加 37万人以上

農林漁業体験を経験した国民の割合の増加 30%以上

食品の安全性に関する基本的な知識を持っている国民の割合の増加 90%以上

推進計画を作成・実施している市町村の割合の増加 100%

詳しくは、内閣府 http://www8.cao.go.jp/syokui/ku/about/plan/pdf/2ki_honkei_kaku.pdf をご覧下さい。

「食事バランスガイド」認知及び参考度に関する全国調査結果

農林水産省が平成22年度に実施した標記の全国調査結果が、公表されましたので、その一部を紹介いたします。

食事バランスガイドについて

- (1) 認知度 60.4%
- (2) 参考度 66.3%
- (1) 認知度 35.6%
- (2) 実践度

主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを 63.4%

ごはんなどの穀類をしつかりと 83.8%

牛乳、乳製品、緑黄色野菜、豆類、小魚などで、カルシウムを十分にとりましょう 59.8%

脂肪のとりすぎをやめ、動物、植物、魚由来の脂肪をバランスよくとりましょう 52.0%

食文化や地域の産物を活かし、ときには新しい料理も 38.0%

農林漁業体験について

(1) 興味がある 58.4%

(2) 参加した人がいる 26.9%

その他、理由等も掲載されていますので、農林水産省の <http://www.narf.go.jp/j/syokui/ku/nozomasi>

http://syokusei.kat.u.htm#ogt_yousaku をご覧下さい。

食育劇「けんきのひみつはなんだ？」

食育クラブ「ぐうぐうgoo！」



て、朝ご飯を食べることは、大切なんだなあと思います。うんちをするのもとても大切だとわかりました。この学習のまとめが歌でできていいなと思いました。

5年男児：小さい頃から朝ご飯をとつてもいつぱい食べていたので、それがふつうかと思っていたけど、元気が出た、体が目覚めるなど、いいことがいつぱいあるとげきでわかりました。

6年女児：朝ご飯は毎日食べていますが、赤・黄・緑がそろっていないことがあるので、これからは考えて食べたいです。毎日便が出ているかは、考えたことがなかったの、これからはきちんと確かめようと思います。

6年男児：いろいろな所でいろいろな歌が出てきたのはとてもいいと思います。「お食事チャチャチャ」がとてもよかったです。

全校児童を対象に話を進めるのはなかなか難しいことでしたが、それぞれの子供たちが、その子なりに感じ、理解してくれていることがわかり、私たち自身も楽しく行うことができました。

また、子供たちに「食の大切さ」が伝わったことが、とても嬉しく思いました。

(記事：食育クラブ「ぐうぐうgoo！」)

平成23年2月15日、岩倉市立岩倉東小学校、第2回学校保健委員会で、全校児童と保護者(希望者)を対象に食育劇を行いました。児童数約200名の小規模校、四分の一が外国籍の子供たちで、日本語もわからない子もいるということで、できるだけ視覚から入るような媒体を使用し、人形や歌を用いて、食の大切さを伝えました。

「からだは食べ物でできている」「食べ物の命をいただいて自分たちの命をつなぐ」「朝食の必要性」「バランス良く食べるには」「大腸の中」「うんちのはなし」「みんなで歌おう」と小さなテーマを順にわかりやすく進め、一緒に考えたり、笑ったり、歌ったりしながら、楽しく食育を伝えました。

以下、子供たちの感想を紹介しま

す。

1年女児：わたしは、はなちゃんみたいな元気な女の子のなれるといいなとおもいました。

2年男児：小ちよの長さが4〜5メートルもあることをはじめて知りました。すききらいをなくしたいです。

3年男児：朝ごはんをあまりたべていないので、早ね早おきをして4つのなかまの食べ物食べていきたいです。

3年女児：命をいただいてたべるので、感謝の気持ちをかめて食べるようにします。

4年女児：おもしろかったです。朝ごはんやきゅうしよくをいっぱい食べて、けんこうに気をつけていきたいと思いました。

5年女児：はなちゃんの話の聞いて

父(田)牛乳(ち)を贈ろう！

愛知県酪農農業協同組合では、父の日(6月19日)に牛乳(ち)を贈ろう!! キャンペーンの一環で学校(幼稚園・保育園もOK)への酪農の出前授業を募集しています。

授業内容は、愛知県の酪農家等がお邪魔し、酪農家の一日や牛の話、搾乳模擬体験機ミセスHカップさんの体験など一時間程度。牛乳月間の6月中に3校程度。

応募には、酪農家さんへのメッセージを添えて申し込んで下さい。詳しくは、[東海農政局教育ファーム](#)で検索！

応募締め切り：5月16日必着

お問い合わせ：愛知県酪農農業協同組合教育ファーム担当：飯田

電話：0564・53・2450

FAX：0564・54・1885



22.6 美浜町立布土小学校にて

東海地域の食育イベント情報をお知らせ

「とうかい食育推進だより」への掲載情報を募集しています。掲載ご希望の方は、お近くの岐阜農政事務所、三重農政事務所、東海農政局地域第一〜四課、または東海農政局消費生活課までお問い合わせ下さい。

東海農政局消費生活課(食育推進班)

電話052・223・4651